

令和2年度競技別指導者養成講習会助成事業
実施報告書

医科学的視点から考えるダウン症を含めた知的障がい者アスリートへの安全な指導方法について			
1. 競技団体名	一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会 (ANiSA)	2. 報告者役職・氏名	会長：斎藤利之
3. 期 日	令和2年10月3日(土) 13時00～16時00分		
4. 会 場	会場名：ユニカ食品(株) 大会議室(8階) (資料①参照)		
	住 所：東京都渋谷区渋谷3丁目8-11 渋谷3丁目 TRビル8階 電話番号：03-5469-0923		
5. 実施概要	実施対象	ANiSA 加盟団体(強化担当及び事務担当)	
	受講者数	加盟団体17名、事務局3名、オブザーバー2名 講師2名 合計24人 (資料②参照)	
	事業の目的・目標	Virtusでは、2019年グローバル大会よりダウン症カテゴリー及び自閉症カテゴリーの実施が本格化してきた。しかしながら、日本国内ではその環境が整っておらず、具体的な指導方法も確立していない。そこで、当講習会では専門医を招き、禁忌事項や指導上の注意点など医科学的な視点から、ダウン症アスリートに関する今後の指導の在り方について情報の共有を行う。最終的にはそれぞれの団体において、地域ごとの指導者やコーディネーターの養成に寄与する事を目的とした。	
6. 運営体制とスタッフ等の役割	<p><運営体制></p> <p>会場の設営に関しては ANiSA スタッフ3名により、当日の午前中に準備を行い、特にコロナ対策における配慮など安全な運営を心掛けた。分担は、以下の通り。</p> <p>斎藤：全体統括(司会等) / 若菜：会場の設営係 / 谷口：会場への誘導係</p>		
7. 実施内容 (タイムテーブルも記載ください)	<p>以下の事項を含めて、事業として実施した内容を記載してください</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施した事業プログラム内容 ・上記実施に関する周辺事業(事前の準備会議、実施報告、事前事後の広報等) <p><プログラム内容(資料③及び④参照)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口医師：「クラシフィケーションの現状」と題して講義(60分) (趣旨) 現在、Virtusでは新しいカテゴリーが新設されそれに伴う申請が複雑化している。そこで、今回は、まず現状の申請(判定書等)に関わる様々な課題や注意すべき点などについて、具体的な事例を元に解説を頂いた。 ・沼部医師：「Down症候群とスポーツ」と題して講義(60分) (趣旨) 遺伝子レベルにおける人間の成長過程について専門的な視点から説明を頂いた。その後、「21番トリソミー(ダウン症)」に特化した内容に掘り下げ、その判定基準や特性について動画なども用い報告された。また環軸椎不安定症に関わる医学的な知見からその注意点について示唆があった。 ・参加者による質疑応答(30分) <p><事前準備及びコロナ対策等></p> <p>講師とは2か月前から当日の内容に関する打ち合わせを実施し、参加者への事前学習の意味も込めて9月20日を目途に事前に資料を送付頂いた。参加者は、各自質問内容などを簡潔にまとめるよう指示した。</p>		

	<p>また参加者は、当日の朝の検温を必須としマスク着用で来場して頂くように指示し、会場においては「密」を回避すべき、十分な換気対策を行った。また、全員にフェイスシールド（マスクのみの着用も可）と除菌剤による消毒も義務付けた。</p> <p><タイムテーブル等> （資料⑤参照）</p>	
<p>8. 事業実施の様子（写真）</p>		
	<p>① 講師：山口医師（右）及び沼部医師（左）</p>	<p>② 会場の様子</p>
<p>9. 総評と反省</p>	<p>今回の講習会は、コロナ禍での開催且つ ANISA として初めての開催であったが、事前準備及び当日の対応も含め、十分な対策を講じて実施出来た事は、参加者にとって安心材料になったのではないと思う。また、講義内容に関しても、講師（医師）と事前に十分に打ち合わせをするなど、参加者が必要としている情報提供に十分に寄与出来たと考えている。特に、国際知的障がい者連盟（Virtus）が、今後、ダウン症カテゴリーを本格稼働（実施）していく中で、日本としても十分な準備をする必要があるため、基本的な知識を加盟団体（横の連携も含め）と共有できたのは大きな成果と考えている。</p> <p>今後は、今回の学びをそれぞれの団体でどのように対応していくか、より具体的な対策や支援方法を引き続き検討していきたいと思う。</p> <p>（資料⑥参照）</p>	
<p>10. 今後の取組</p>	<p>特に専門医を招聘しての講習会は、競技者のみならず指導者が安心して支援できるための重要なエビデンスとなりうるため、関係各位及び周辺領域などの横の連携を更に強めて行きたいと考える。</p> <p>また、事後のアンケートから参加者全員が今回の講習会が大変有意義であったと述べられており、継続して実施していく必要性を感じた。</p> <p>今後は、「自閉症アスリートへの指導方法や女性アスリートへの指導方法」に関する講習会の実施を検討している。</p> <p>最後に、各 NF からの要望として、申請書に関して協力してくれる医師の確保など、全国区で要請出来ないかというリクエストがあり、ANISA としてもその重要性は認識していたため、今後、山口医師を中心に積極的な展開を行っていきたい。</p>	